

# 第9回ESIBLA教育フォーラム 高校生の留学を成功させるための 実践的アプローチ

---

## 開催概要

2024年12月14日（土）  
オンライン（Zoom）開催

開催時期：年 **2** 回開催（夏・冬）参加想定：**200**人～**300**人以上

参加型のワークショップや発表を基本とする実践的なセミナーです。  
英語4技能の総合力と探究力を伸ばす最先端の指導実践が効率よく学べます。

Opening Session	毎回、著名人、キーパーソンによる基調講演やパネルディスカッションを行います。
Educational Session	学校、民間教育現場からのリアルな事例発表と議論を行う分科会。
Exhibitor Presentation	教育改革に向けた新たなソリューションを提案する企業・団体の展示やプレゼンテーションの機会を設けます。
Conference Social	産学の垣根を越えた交流を推進する懇親会を実施します。 <英語4技能・探究学習推進協会会員+教職員 限定> ※オンライン開催では実施しない場合がございます。

## 開催者



1. Zoomミーティングを準備
2. 当日10時にチケット購入者へ視聴情報を送付

## 登壇者



3. 開催者から「共同ホスト」として登録
4. 当日は登壇するZoomミーティングへアクセスし、登壇時刻に自身のPCからプレゼンテーション

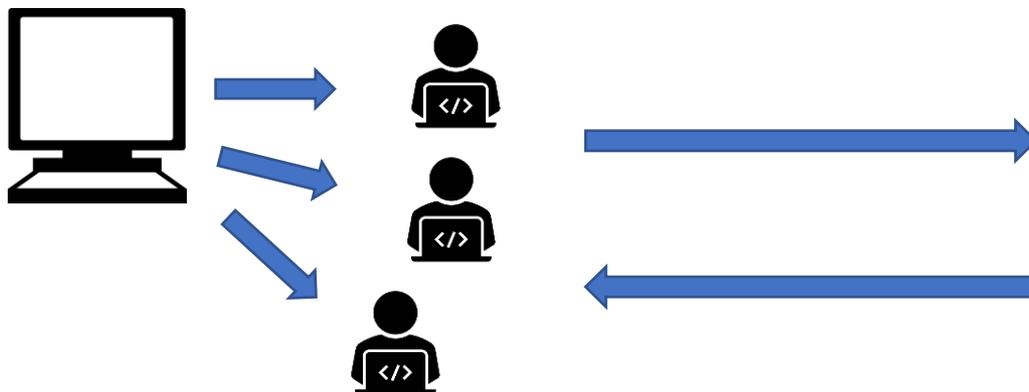
※共同ホストは複数登録可能  
※ウェビナーの内容によって、登壇者を「ホスト」へ登録することも可能です

## 視聴者



5. 視聴情報を確認後、視聴したいZoomミーティングへアクセス（ブラウザ/アプリから）
6. 各ウェビナーを視聴する

## 1. 開催者から視聴者へZoom視聴情報を通知



## 2. 登壇者様は、PCからミーティングへ参加（配信）



当日の午前10時、チケット購入者に全てのプログラムの視聴情報が送付されます。

最初のプログラム（基調講演）が終了後、セッション1への移動案内をESIBLA事務局より視聴者へ出します。視聴者は案内に従って、興味のあるセッションのZoomミーティングへアクセスします。

貴社セッションの回開始時刻になったら、登壇者様はセッションを開始してください。

※当日を迎える前に、各登壇者様とESIBLA事務局のスタッフで最低1回ミーティングをオンラインで開催し、当日のシミュレーションを行います。

※セッション2のプログラムについても同様に、セッション1終了時にESIBLA事務局より視聴者へアナウンスを出します

## ◆タイトル

### 高校生の留学を成功させるための実践的アプローチ

## ◆開催概要

2023年6月に、第4期教育振興基本計画が閣議決定されました。教育振興基本計画は、日本の教育の質を向上させるための中長期的な目標や方針を定めた政府の指針です。この計画は5年ごとに新たな目標や施策が設定されます。

第4期基本計画（2023年～2027年）の目標の中には「グローバル社会に対応できる人材育成」や「英語力向上および留学生数の増加」などが盛り込まれています。具体的には、中学校卒業段階でCEFR A1レベル以上、高等学校卒業段階でCEFR A2レベル以上を達成する中高生の割合を6割以上とすることを目指しています。これは、第3期基本計画（2018年～2022年）の「達成割合5割以上」からの上方修正です。

さらに、2033年までに日本人高校生の海外留学生数を12万人に増やすことを目標に置いています。2017年の高校生留学生数は4.7万人（文部科学省調べ）であり、10年間で2.5倍以上に増加させる計画です。

今後、留学生増加のために、官民による英語教育やキャリア教育の推進、国際交流プログラムの拡充、留学に対する奨学金制度の強化、留学後のサポート体制の充実など、さまざまな施策が積極的に進められることが予想されます。本セミナーでは、「高校生の留学を成功させるための実践的アプローチ」と題し、高校留学の現状や学校現場での生徒への留学サポートについて詳しく解説します。

◆開催日時：2024年12月14日（土）13：00～15：00（開場 12：30）

◆開催形態：オンライン（Zoom）

◆お申し込み方法：下記URLよりお申し込みください。

<https://forms.gle/4RrDwRb1VkcCfQxz7>

参加費・視聴料は無料です。

**※Zoomのアクセス情報は12月13日（金）にお申込者のメールアドレス宛にお知らせいたします。**

## ◆プログラム

	基調講演
13 : 00 ～ 13 : 45	<b>多様な”留学”のススメ &amp; 大人たちの役割</b>  鳥居 健介 先生（教育アクティビスト、元 公文教育研究会・社長室 ・ 渉外担当リーダー）
	セッション1
14 : 00 ～ 14 : 45	<b>トビタテ！留学JAPAN：最適な留学先選びと9期生のリアル体験談</b>  中岡 真 先生（イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン 株式会社 大阪支社）

※内容は変更される場合があります。

## 多様な”留学”のススメ & 大人たちの役割

### 登壇者

鳥居 健介 先生

### 講演概要

そもそも「留学」とは「他の土地に留まって学ぶ」こと。それにどんな意味や価値があるのでしょうか？なぜ外国なのか？（何のために、どんな国へ行くのか？ どうしても外国でなければならないのか？）何を「学ぶ」のか？（学校で学ばなくてはならないのか？）さまざまな問いや疑問が生まれます。

文科省が官民協働でスタートした「トビタテ留学！JAPAN」は、これまでの留学のイメージを大きく変えました。学力不問、英語力不問、選考基準は「情熱・好奇心・独自性」... どこへ行って何をするか？すべてはあなた次第。粒ぞろいではなく「粒違い」を求め、多様で多彩な海外体験を返済不要の奨学金で支えます。すでに1万人以上がこの制度でトビタテ、唯一無二のコミュニティも生まれています。

そして今、短期の語学研修から、挑戦的な探究活動やインターンシップまで、さまざまな選択肢が増えてきました。

「留学はしてみたいけど、不安がある。」、生徒たちがそれを乗り越え主体的に、留学（海外体験や越境体験）をしたいと思えるようになるために、私たち大人はどのようなサポートができるのか？一緒に考えましょう。

自分に留学経験がないから生徒に積極的に勧められないという正直な声を聞くこともありますが、それを越えることで生徒の可能性を大きく広げることもできるのではないのでしょうか？

### プロフィール



#### 鳥居 健介（とりいけんすけ）

教育アクティビスト 元 公文教育研究会・社長室・渉外担当リーダー  
新卒～定年までKUMON一筋だが、公文式の教室事業は5年だけ。新規事業、英語関連、国際交流、広報、渉外担当として、社外との様々なプロジェクトに従事。定年を機に、多様性・共生と♻の街、大分県別府市に移住。  
自分に留学・海外赴任経験が「ないからこそ」の思いで、トビタテ！留学JAPAN、地域みらい留学など、さまざまな留学支援活動に関与。特にトビタテでは、評価委員、面接審査や事前・事後研修、コミュニティ活動を通じて、多くの関係者・トビタテ生との協働や支援を行う。

#教育、#留学・国際交流、#地域・若者支援、#再犯防止、#移住

### メッセージ

生徒たちの可能性を広げるための多様な”留学”と、それを応援できる大人としての役割について「一緒に考える」時間にしましょう

## トビタテ！留学JAPAN：最適な留学先選びと9期生のリアル体験談

### 登壇者

中岡 真 先生

### 講演概要

EFは世界各地で、語学学校・高校・大学・大学院を運営する世界最大規模の私立国際教育機関で、毎年約2,000名の中高生がEF現地校へ留学しています。

トビタテ！留学JAPANへの留学計画の作成に当たり、現地校の特徴を理解することは、より具体的な留学計画の作成や安心できる渡航に繋がります。日本事務局を持つ国際教育機関EFより、実り多い留学を実現するために、現地校の目線から現地受入先機関の選び方のポイントについてお話しいたします。

講演内では、トビタテ9期生としてEF現地校へ渡航されたEF卒業生の方の体験談もお聞きいただけます。トビタテ！留学JAPANへの申請をご検討されている生徒様・保護者様、生徒様とご相談を受けている先生の皆様にとって、有益な情報をご提供できればと存じます。

### プロフィール



#### 中岡 真（なかおか しん）

滋賀県出身。関西外国語大学在学中に、リーズ大学（英国）へ留学し教育学について学ぶ。大学卒業後は、滋賀県立彦根東高等学校、近江兄弟社高等学校にて英語科教員として勤務。

近江兄弟社高等学校では、アジア姉妹校との現地交流プログラムの策定や、京都大学 森里海連環学教育研究ユニットと協働でのアジア姉妹校生徒を招いた滋賀県内でのフィールドワークの実施、地元企業とコラボしたSDGsに関わる学生イベントの開催に従事。探求学習に関する学校設定科目の担当やサッカー部監督として、多忙な日々を送る。

コロナ禍を経て、イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社へ転職。学校現場での国際教育の拡充のために、独自留学プログラムの提供に加えて、留学やグローバル企業で働くことについての特別授業・講演を全国の中学校・高等学校で実施している。

一児の父。趣味はツーリング、本屋巡り。CELTA取得に向けて勉強中。

### メッセージ

本セミナーが、日本の中高生が世界へトビタツ1歩の後押しになれば幸いです。



～ご参考～  
これまでの  
ESIBLA教育フォーラム

---

# これまでのESIBLA教育フォーラム

回次	テーマ	開催日	会場
第8回	英語教育と生成AI	2024年10月12日	オンライン開催
第7回	AI時代の英語教育のあり方	2023年6月24日	オンライン開催
第6回	2022年度・新学習指導要領実施で英語授業はどう変わる？	2022年1月29日	オンライン開催
第5回	ニューノーマルのPBL ～ポストコロナにおける課題探究型学習～	2021年10月16日	オンライン開催
第4回	2021年の英語授業実践	2021年1月9日	オンライン開催
第3回	With/After コロナ時代の探究学習	2020年8月22日	オンライン開催
第2回	探究学習の最前線	2019年12月22日	聖徳学園中学・高等学校
第1回	英語4技能の授業実践	2019年8月31日	JASSOプラザ平成

## ◆タイトル

英語教育と生成AI

## ◆開催概要

生成AIが英語教育にどのように活用されているかについて、概念と実践の両面から探ります。

## ◆開催日時

2024年10月12日（土）13：00～

## ◆開催形態

オンライン（Zoom）

## ◆プログラム

	<b>基調講演</b>
<b>13 : 00 ～ 13 : 45</b>	<b>英語教育と生成AI : 可能性と課題</b>  <b>田中 茂範 先生 (慶應義塾大学名誉教授)</b>
	<b>セッション1</b>
<b>14 : 00 ～ 14 : 45</b>	<b>生成A I を活用したこれからの授業の考え方とつくり方</b>  <b>豊嶋 正貴 先生 (國學院大學教育開発推進機構兼任講師)</b>

※内容は変更される場合があります。

## 英語教育と生成AI：可能性と課題

### 登壇者

田中 茂範 先生

### 講演概要

学校英語教育を取り巻く環境は大きく変化し、教室空間内だけで英語指導を完結するという考え方から、オンライン英会話や生成AIの台頭により、教室の空間を外に開くという考え方にシフトしている。ここでは、生成AIの可能性とその課題について、理論・実践の両面から議論を進めていきたい。生成AIを教育の中に位置づけるには、まず、生成AIの特徴を明らかにしなければならない。その際の留意点をまとめると、(1)生成AIはもっともらしいが間違っただけの情報を含んだ内容を生成するだけでなく、間違いでなくてもバイアスがあることから生成された内容を鵜呑みにすることはできないということ、(2)人間の生きるコンテキストと生成AIが依拠するコンテキストは異なるし、また本来の意味で生成AIは人間のように「理解」することはできないこと、(3)生成AIには「業務遂行機能」と「情報提供機能」があるが、教育で注目すべきは「情報提供機能」のほうであり、情報をいかにして有用なリソースに変えるかがポイントになること、(4)その際、生徒側の制作力、比較力、評価力が大切になることが含まれる。これらのことを考慮したうえで、生成AIを効果的に使うために大切なことは、英語教育の目標である確かな英語力を育てる全体像に生成AIを位置づけることである。この発表では具体的な事例を取り上げながら、議論していく。

### プロフィール



田中 茂範 (たなか しげのり)

コロンビア大学大学院博士課程 (教育学博士)

茨城大学 1984-1989 慶応義塾大学 1990-2018 を経て慶応義塾大学名誉教授、インターナショナルモンテソーリミライキンダーガーデンの名誉園長を務める。専門：言語論、意味論、英語教育、探究学習。100冊以上の書籍の出版、120本以上の論文を執筆。現在、学校で、探究学習と英語学習のカリキュラム開発、教材開発を行っている。

一般社団法人 英語 4 技能 ・ 探究学習推進協会

〒108-0014  
東京都港区芝5丁目14-13 アセンド三田7階  
TEL: 03-4405-3630  
FAX: 03-5432-9907  
MAIL: [info@esibla.or.jp](mailto:info@esibla.or.jp)

- ▷ Change Maker Awards  
<https://esibla.or.jp/change-maker-awards/>
- ▷ ESIBLA教育フォーラム  
<https://esibla.or.jp/esibla-forum/>
- ▷ 一般社団法人英語 4 技能 ・ 探究学習推進協会HP  
<https://esibla.or.jp/>
- ▷ 探究学習白書  
<https://esibla.or.jp/inquiry-based-learning-white-paper/>

お気軽にお問い合わせください。